

# We Are The World

## —マイケル・ジャクソンの世界—

(株)日本設備工業新聞社  
代表取締役社長 高倉克也

少年時代から兄たちと共に音楽界で活躍した。比類なき才能でソロデビューし、前人未到の驚異的ヒットを連発する。ギネス世界記録で人類史上もっとも成功したエンターテナーと認定された。

マイケル・ジャクソン(1958—2009)はキング・オブ・ポップと讃えられ、1980年代にポピュラー音楽界の頂点に立つ。熱心な慈善活動家としても知られ、チャリティー・コンサートを中心に総額5億ドル以上寄付していたと推計されている。

その一方で私生活に関する数々のゴシップに悩まされた。嫉妬、憶測、偏見の渦に巻き込まれ、訴訟の件数も計りしれない。心労によって睡眠薬や鎮痛剤の依存症となり、スターダムに昇り詰めてから晩年に至るまで格好の標的にされた。

### アイドルからアーティストへ

マイケルはアメリカ・インディアナ州ゲーリーの貧しいアフリカ系アメリカ人家庭の五男として生まれた。父はクレーン操縦士、母はデパートのパート従業員として家計を支えていた。

ミュージシャンを夢見ていた父の命令で幼い頃から歌とダンスのレッスンに明け暮れる。上達しないとベルトで叩かれ、のちにマイケルは虐待を受けていたと打ち明けている。容姿についてもデカ鼻などと日常的に揶揄されていた。

きびしい訓練に耐えてマイケルと4人の兄はニューヨークのアポロ・シアターへ進出し、1969年に待望のメジャーデビューを果たす。4曲連続

で全米チャート1位を獲得し、マイケルをリードヴォーカルとするジャクソン5は1970年代から世界的な人気兄弟ユニットとして一世を風靡した。

シングル「ガット・トゥ・ビー・ゼア」で1971年にソロデビューし、翌年リリースした「ベン」で全米チャート1位に輝く。可憐でビブラートのかかった繊細な歌声が新たなファンを獲得した。

人気アイドルから本格的アーティストへ成長する過程で音楽界の巨匠クインシー・ジョーンズと出会う。1979年、マイケルは家族やレーベルの反対を押し切ってアルバム『オフ・ザ・ウォール』のプロデューサーにクインシーを迎え、大成功を収める。批評家からも絶賛された同アルバムは70年代ディスコ・ブームやブラック・ミュージックの集大成として全米で800万枚を売り上げた。

勢いに乗って1982年、ふたたびクインシーがプロデュースしたソロ・アルバム『スリラー』を発表する。先行シングルとしてポール・マッカートニーとのデュエット「ガール・イズ・マイン」が発売された同アルバムは7000万枚を売り上げ、世紀のモンスター・アルバムと矚目された。



マイケル・ジャクソン

ギネス世界記録は史上もっとも売れたアルバムと認定。ホラー映画風の約14分のショート・フィルムも制作され、現在に至るまでミュージック・ビデオの最高傑作といわれている。

## ネバーランドの善意と疑惑

シングルで最大のヒット曲となった「ビリー・ジーン」ではマイケルのダンス・パフォーマンスの代名詞となるムーンウォークが必ず披露された。無重力で月面を浮遊するようなムーンウォークに加え、爪先立ち、高速のスピン、ブレイクダンス、軽妙なパントマイムなどで観客を魅了する。

人気絶頂のマイケルの快進撃は不慮の事故によって中断された。ペプシコーラのコマーシャル撮影で頭部に重傷の火傷を負う。精神的にも不安定になり、のちの薬物依存症のきっかけとなった。

それでもマイケルは不死鳥のように甦る。1985年、アフリカの飢餓救済をめざすUSA・フォー・アフリカに参加し、ライオネル・リッチーとの共作「We Are The World」をリリースした。レイ・チャールズ、ボブ・ディラン、ダイアナ・ロスらスーパースター45人が集結し、クインシーの指揮で一斉に録音する。最終的にアメリカ国内だけで750万枚を売り上げ、印税はすべて寄付された。

同曲のレコーディングにあたってマイケルは「あなたと私は別物ではない」「私たちは、傷ついたこの世界を癒さなければならない。私たちが眼にする混沌や絶望、無意味な破壊は人々がお互いやまわりの環境から感じる疎外感に起因する」と語っている。彼のメッセージは「私たちはひとつの世界 私たちはその子供」という歌詞に結実し、国内にとどまらず国境を超えて共感を呼ぶ。

理想を現実に変えようとする試みは1988年、推定3800万ドルで建造したネバーランドで具体化する。カリフォルニア州サンタバーバラに位置するネバーランドは敷地面積が1,092万㎡に及び、マイケルの自宅に遊園地、動物園、ゲームセンター、スタジオなどが併設され、敷地内を機関車が走った。マイケルは難病に苦しむ子供たちや恵まれない子供たちを招待し、精神的にサポートする。

だが善意は裏目に出て二回にわたる少年への性的虐待容疑で起訴された。報道が過熱する中、

最初は民事裁判で和解、二度目は逮捕されて刑事裁判が行われた。結果的に証拠は発見されず有罪判決を受けたことは一度もない。この一連の疑惑についてFBIは10年以上にわたる捜査と監視を行い、報告書で無実だったと結論づけている。

## あえて夢を追わなければ

疑惑は晴れてもスキャンダルは後を絶たない。今回は整形手術や肌の色の変化が憶測を呼んだ。もともと容姿にコンプレックスを抱いていたこともあり、鼻と顎を中心に整形手術を繰り返した。肌の変化は尋常性白斑という疾患に起因しており、体中の皮膚が斑状に白く変化していった。当初は茶色のファンデーションで隠そうとしたものの、白斑が全身に広がると白いメイクに切り替えた。

音楽面では人種差別などの社会問題もテーマにした『バッド』『デンジャラス』などのアルバムが大ヒットし、ワールド・ツアーでマイケル旋風を巻き起こす。私生活ではエルビス・プレスリーの娘リサと結婚し、一年半ほどで離婚。10カ月後に再婚したものの、1カ月もつづかなかった。

民主党全国委員会による2002年のパーティーで歌って以降、マイケルはコンサートを休止する。2009年3月にロンドンで記者会見を開き、最後のツアーとして「THIS IS IT」を敢行すると発表した。しかし公演開始1カ月前の6月25日、急性プロポフォール中毒で心肺停止状態に陥り、50歳で急逝する。同年10月、O2アリーナでのリハーサル映像を取めた映画『マイケル・ジャクソン THIS IS IT』が全世界で公開された。

ピーター・パンに憧れていたマイケルは「ピーター・パンからイメージするのは若さ、子供時代、大人にならないとか、魔法とか、空を飛ぶこととか、僕はそういったものが何よりも大切だと感じているんだ」と語っていた。いわば永遠の子供を象徴していたのかもしれない。ホームレスを見ると放っておけず、車を停めてありったけの金を渡し、励ましていたという。幾多のトラブルによって人間不信に陥りながらも「絶望に満ちた世界にあっても、あえて夢を追わなければならない。不信に満ちた世界にあっても、あえて信じなければならない」と自分自身に言い聴かせていた。